非核・いしかわ

2022 年 10 月 20 日　月刊第 291 号

〒920-0848 金沢市京町 28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

非核五項目

① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の署名は 91 か国、批准は 68 か国（10 月 15 日現在）

1 面　2022 年反核医師のつどい in 兵庫　非核「神戸方式」を全世界に　梶本修史
2 面　核禁条約が 68 カ国、署名は 91 か国に
3 面　福島県浪江町津島（全域帰宅困難区域）「ふるさとを返せ！」原告の報告
4 面　枯れ木に花を咲かせましょう―絶望するものが花を咲かせる　奥田知志
5 面　上映会感想「わが青春つきるとも―伊藤千代子の生涯」
6 面　不惑たりえない―市民の想い　池田治夫
7 面　<独標>今起きている事　高久晴美
　　編集室より
8 面　石川の山めぐり　吉沢京子
　　絵手紙コーナー　坂本朋子
　　非核・平和の掲示板

2022年反核医師のつどい in 兵庫・サテライト企画

非核「神戸方式」を全世界に

兵庫県原水協事務局長　梶本修史

講師の梶本修史さん

毎年九月二六日は、国連が定める「核兵器廃絶のための国際行動デー」とされている。石川反核医師の会では、毎年記念企画を開催しているが、今年は、全国の反核医師の会が毎年開催する「反核医師・医学者のつどい」in 兵庫をオンライン視聴するイベントとして開催した。

当日は、核開発企業に対する銀行の投融資中止を求める「Don't Bank On the Bomb キャンペーン（核兵器にお金を貸すな）」の意義に関する講演。石川でもご存じの方が多い安斎育郎先生の講演など多彩であったが、紙面が限られている中、梶本修史氏による非核「神戸方式」に関する講演の内容を報告する。

●戦争と神戸港

梶本修史氏（兵庫県原水協事務局長）は、核兵器廃絶・憲法九条を守る重要な手段として、〝非核「神戸方式」を全世界に〟と題して報告された。

まず、戦前から戦中の神戸港の歴史を紹介。当時は軍事工業発展により、輸出額が全国一位となっていたが、戦前最大規模の争議である川崎・三菱神戸造船所大争議が起こるなど、八時間労働制の発祥の地ともされるなど活発な運動があった。終戦直後には、米軍が神戸港・六甲山頂を全面占領。朝鮮戦争、ベトナム戦争においては米軍第七艦隊の補給・休養基地として活用された。一九七四年には全面返還されるが、その間も米艦船の入港が頻繁にあり、検疫フリーによる麻薬、武器の暴力団への横流し、米兵による発砲事件、市民への暴行事件の発生などが相次いだ。

米軍基地撤去に向けては、一九六一年からの「クリスマス闘争」をはじめ、多彩な抗議行動を展開。インドシナ人民支援船が神戸港から出港、連帯ス

花鳥風月

新型コロナウイルスパンデミックが始まり二年半。一進一退ではあるが、ようやく今夏には核兵器禁止条約の第一回締約国会議、ＮＰＴ再検討会議が開催された。しかし、待望の会議も予想通りというべきか、日本政府の参加はなく、さらに泥沼化を見せているロシアによるウクライナ侵攻の影響からのＮＰＴ決裂など、平和を希求する人々にとっては期待された成果は得られなかったというのが本音だろう。一方で、それに抗う新たな動きも見えてきた▼核兵器廃絶ＮＧＯ連絡会として、遠藤あかり氏が締約国会議に参加、高橋悠太氏がＮＰＴ再検討会議で若者代表としてスピーチされるなど次世代の活躍が光った。ただ、若者がんばれ！で終わってはいないだろうか▼かの岩佐幹三氏は、核兵器廃絶のためには被爆者かどうかを越えた、「地球市民」としての連帯を提唱されていた。今がそのときではないか。被爆者の高齢化の中、被爆者とともに歩んできた世代と次世代が共に手を携えて新たな平和の波を起こさなければならない。全世界・全世代共闘で、時の支配者による愚かな戦争に、毅然として立ち向かいたい。読者諸氏にとって、『非核・いしかわ』がその道しるべとなれば幸いである。（Ｏ）

トライキの実施などに加えて、一九六六年からは神戸港原水協の六・九行動開始。他にも様々な活動の成果により、一九九二年一一月にはついに六甲山頂の米軍基地撤去が実現した。

●非核神戸方式の誕生

次に、非核神戸方式の誕生経緯を解説。大きなきっかけが、「ラロック発言」であった。（詳細は割愛するが）一九七四年、アメリカ議会でのラロック元海軍少将による不用意な発言から、日米両政府間の「核兵器持ちこみ密約」の存在が明らかになった（有名な「ライシャワー発言」とも関連する）。これに対して、当時の宮崎辰雄神戸市長は同年一二月議会にて「私は、港湾管理者の立場として、この問題が正確に解明されない以上、この艦艇の入港に対しては拒否したいと考えております」と答弁。兵庫県原水協などが入港を認めない宣言を求める陳情にも取り組んだ。

この背景には、同年発生した大事件が絡み合う。原子力実験船『むつ』が、同年九月一日に放射能漏れ事故を起こしたのだ。この原子炉修理のために、原子炉製造地である三菱重工神戸造船所のある神戸港が寄港有力地とされ、国からも通達が出された。これに対して、同年九月二四日、神戸市議会で「原子力船『むつ』の神戸港入港に反対する決議」が全会一致で採択。宮崎市長も「原子力船の安全が保障され、市民の不安が解消されない限り反対してまいりたい」と、毅然と立ち向かったことで、『むつ』寄港は阻止されたのである。

このような背景もあり、翌年の一九七五年三月一八日に、神戸市議会で「核兵器積載艦艇の神戸港入港拒否に関する決議」が全会一致で採択された。これが現在も続く非核神戸方式の誕生であった。

●非核神戸方式の仕組み

具体的な神戸方式の手続きとしては、まず在日外国公館（大使館）から外務省所管局長に口上書を通知、その後、外務省から港湾管理者である市長に入港の連絡をすると、市長から在日外国公館に対して「非核証明書」を請求する。これに対応して返送した場合にのみ、当該軍艦エージェントに入港許可通知が発行されるという仕組みである。簡単に言えば、入港前に、「当艦では核兵器を積載していない」ことを証明しなければ入港拒否するということである。しかし、アメリカは核兵器の保持については持っているとも持っていないとも言わない。という方針が取られていることから、この効力は絶大で、決議から四七年間、米艦船の神戸港への入港は一切ない状態が継続している。一方で、神戸港以外の一般港にはこの間、六五港に計八七〇回入港されている（外務省公表資料より）ことからもその効力が分かるだろう。

海外への余波として、国連ＮＧＯミレニアムフォーラムの最終宣言採用、国連作業部会にも影響を与えた。核兵器禁止条約第一条「禁止」とも関連しており、国際規範となっている。

●核廃絶・九条を守る運動と非核神戸方式

一方で、採択後、アメリカによる放棄を求める動きや新ガイドライン、新港湾法、自衛隊法などによる「戦争をする国づくり」体制とあわせた非核神戸方式つぶしの動きが行われている。神戸港の軍事利用の動きの強まりとして、空母インディペンデンス派遣計画なども行われている。これに対して、今こそ非核神戸方式を全世界に広げる必要がある。核禁条約に参加する政府の実現は、それすなわち基地のない日本であり、非核神戸方式全国化の道でもある。第一回締約国会議、ＮＰＴ再検討会議の成果をもとに、第二回締約国会議、第一一回ＮＰＴ再検討会議に向けて、この世論を高めたい。また、非核神戸港と非核釜山港の日韓市民共同の拡大から、神戸方式を非核・平和の北東アジアづくりの橋頭堡として、日本、アジアを変える推進力になると説いて講演を閉じた。

（まとめ　大田健志）

◆トピックス
「核禁条約」批准が六八か国、署名は九一か国に

九月一三日から第七七期国連総会が開かれており、二二日に国連本部で核兵器禁止条約に批准・署名の式典が開かれ、新たに批准が二か国、署名が五カ国増えました。

核兵器廃絶国際キャンペーン（ＩＣＡＮ）のウェブによると、核兵器禁止条約に新たにコンゴ、ドミニカ共和国が批准し、批准国は六八か国に、バルバドス、ブルキナファソ、赤道ギニア、ハイチ、シエラレオネが署名し、署名国は九一か国（批准国を含む）になりました。

ロシアの核兵器使用の脅しに抗して批准・署名国が増えたことにつき、ベアトリス・フィンＩＣＡＮ事務局長は、「核兵器を違法化し、悪の烙印を押すことがいま非常に求められている。現時点での条約強化は特に歓迎すべきこと」とコメントしました。

講演要旨

福島県浪江町津島（全域帰宅困難区域）

「ふるさとを返せ！」原告

三瓶春江さん、佐々木やす子さんのお話

故郷をもとに戻してほしいと訴える三瓶春江さん

現地を訪れ、証明書を見せながら立ち入り禁止区域を案内してもらった志田弘子（七尾市・友禅作家）さんが、ぜひ多くの人に話を聴いてほしいとよびかけ、羽咋と金沢で会が開かれた。朽ちていく家々を解体する前に記録しておきたいと、制作された津島の映像、美しい森だが線量が高い。

【帰りたい、帰ることの出来ないふるさと津島】

昭和初期の不況による米価、生糸の価格崩落、冷害大凶作などにより、東北地方の農家は苦しい生活を強いられた。家の跡継ぎ以外の者はその中で生きることもままならず、満蒙開拓団として大陸へ渡った人も多い。終戦で命からがら帰国した人たちに居場所はなく、山の中に掘立て小屋を作り炭焼きをし、遠く離れた町へ売りに出て細々と暮らしていた。三〇〇～五〇〇戸が入植地となった津島へ開拓民として入り、血のにじむような苦労をして今の津島を築き上げてきた。

津島村は昭和三一年町村合併で浪江町津島地区となった。当時はバスも通らず昭和三五年生まれの自分も白いご飯を食べられなかった。住民が協力して築いてきた故郷、その津島が原発で壊されていく・・このことを知ってほしい。

【三・一一後の原発事故と子どもの健康】

国は津島の人に「危険だ、早く遠くへ逃げろ」とは一度も言わなかった。「直ちに危険はない」を繰り返す報道だけ。子どもたちも含め四五〇戸一四〇〇人が四日間津島にとどまっていた。浪江町の津波被害地区から避難してくる人たちへの炊き出しを町から頼まれたときも、同じ町内、助け合わなければとみんなで協力した。その間浴びた線量はキケンだったのだ。子どもの甲状腺がんが増えているが、国は原発事故との因果関係はないと言い続けている。大人は現実に起きたことを受け止め、子どもを守らなければならない。何十年も国と闘わなくてはならないと覚悟している。

【福島でやらなかったこと、今やるべきことは】

原発事故はどこで起きるか分からない。原発災害時、移動避難は住民のパニックにつながるから二〇キロ、三〇キロは移動させない、と考えている自治体もある。少しでも遠くへ逃げたい、家族を逃がしたいと思うのが普通だろう。そうした自分の判断で行動すべきではないかと思う。国がやるべきことは、国民の命優先で避難指示を出すこと。国、東電がそれだけの対応をしなかった怒りが裁判に踏み切らせたのだ。

【避難生活・裁判闘争の中で思うこと】

福島では四世代家族でにぎやかに穏やかな生活を送っている家庭が多かった。バラバラに避難し、避難先でいじめを受けても親に心配かけまいと我慢する子ども。家族が多く必要だから大きな家、車を持っていると「賠償金をもらっているから・・」と言われる。子どもたちが周りに原発避難者と言わずにいれば問題はないが、それがいいのか悪いのか・・。津島では畑で物を作る幸せを感じていた人たちは、都会の避難生活に生きがいをなくし精神的に参っている。

知っている人のいないところで暮らす、その辛さは私たちで終わりにしてほしい。仙台高裁での公正な裁判を要請しているが、この闘いは福島だけのものではなく、将来へつなげる全ての人に関わるものだと思う。

公正な裁判へ、署名にご協力を！

（まとめ　末友雅子）

◎原発を考える石川女性の会が九月一五日、金沢市内で開いた福島原発事故津島被害者原告（三瓶春江さん、佐々木やす子さん）の現地報告の要旨です。

講演要旨

枯れ木に花を咲かせましょう

―絶望するものが花を咲かせる―

日本バプテスト連盟・東八幡キリスト教会
牧師　奥田知志

講師の奥田知志さん
ＮＰＯ法人抱樸 理事長

ある哲学者は人の死には三つあると云っています。一つは一人称の死、私自身の死です。二つ目は二人称の死、あなたの死です。身内とか自分が深く関わってきた人の死です。三つ目は三人称の死です。身内でない三人称の死です。安倍さんの死を〝二人称の死〟として捉える人がいてもいいわけです。その人の「内心の自由」だからです。ところが、今回の国葬が問題なのは、安倍さんの死を〝二人称の死〟として全ての国民に押し付け、「内心」に踏み込むからです。従って、安倍さんの政治活動の評価をめぐって国葬の是非を問うのではなく、「国葬」自体はなくてよいと思います。

二点目は統一教会（旧統一協会…編集部注）の問題です。国家や社会のレベルでその宗教団体が持っている教義、教えの問題と実際にやっていることの両面から見る必要があります。統一教会が実際にやっていることは霊感商法、行き過ぎた献金の仕組みは大きな問題です。さらに宗教者からみると、統一教会は何を教えている宗教なのかを問いたい。

どんな教義がヤバい宗教なのか、宗教者からみた二つのポイント（見分け方）を紹介します。一つは「このグループに入らないと救われない、地獄に行く」と教えているのはヤバい宗教です。二つ目は「ここに来れば全ての問題は解決する」と教えているのもヤバい宗教です。宗教に過度な期待をすることはやめてください。宗教で一番大事なことは一緒に悩むこと、あなたのことを祈っている、これが大事です。

国葬と統一教会をみる視点

最初に宗教者として二点発言します。一つは国葬の問題です。国葬に反対意見が大きく広がっていますが、どのような視点で国葬をみればよいでしょうか。まず安倍晋三さんは国葬に価する人かどうかの議論があります。あの人こそ民主主義の破壊者であり、森友学園・加計学園・桜を見る会など「疑惑のデパート」という人でもあります。一方、業績の評価により国葬をおこなうのかという問題もあります。

結論から言うと私は国葬に反対です。宗教者からみると「内心の自由」、自分の思想を大事にしたいから、「思想・信条の自由」「宗教の自由」があるからです。

武力に対抗するのは言葉

ウクライナ戦争が始まって六か月以上経ちました。まさか二一世紀に入って国と国との全面戦争に発展すると想像していませんでした。この戦争にどのように対抗すればよいか、武力に対抗するには言葉しかありません。日本国憲法も言葉です。民主主義とは言葉を信頼するかどうかです。これが信頼できなくなったら暴力、実力行使になります。

「神様は、なんのために人間の口や手や目を創られたのか」「戦争をするためではないだろう」と、戦争が一日も早く終結することを祈り、絵本『すべては神様が創られた』（木星舎）を出版しました。

ウクライナ戦争は収束どころか、ますます泥沼化しています。日本も含めて欧米諸国はウクライナに武器や資金を提供し続けています。これまで軍事的中立をとってきたフィンランドやスウェーデンも北大西洋条約機構（ＮＡＴＯ）に加盟しました。

東西冷戦時代にＮＡＴＯが欧州に配備していた核兵器は七三〇〇発でしたが、一九八〇年代に反核運動が高まり、一九八九年にベルリンの壁が崩壊しました。一九六八年にアメリカは核不拡散条約（ＮＰＴ）に調印しましたが、今でもＮＡＴＯ加盟国のドイツ、イタリア、オランダ、ベルギー、トルコにアメリカの核弾頭が一〇〇発配備されています。核保有国のアメリカが核弾頭を管理し、ＮＡＴＯ加盟国がその運搬手段を供給する、これが「核共有」論です。

絵本『すべては神様が創られた』
奥田知志（文）、黒田征太郎（絵）

プーチン大統領が「核の使用も辞さない」と言っているなか、中国の台湾侵攻や北朝鮮のミサイル発射の脅威に対抗するため、日本でも「核共有」論が広がっています。安倍元首相は、この機に乗じて平和憲法や「非核三原則」は見直すべきと「核共有」論を最も早く主張していました。

沖縄返還交渉と「核密約」

一九六七年一二月、佐藤栄作内閣は国是として「非核三原則」を決定していたにもかかわらず、米軍基地内に核兵器の持ち込みを認めた（核密約）うえで、一九七二年沖縄返還に合意したことが、その後、アメリカ国立公文書館の文書にて判明しています。今年は沖縄返還から五〇年になるが、この問題が顧みられないのは残念です。

憲法は絵空事、お花畑か？

いま私たちは現実に合わせて、憲法を変えるべきか否かが問われています。「憲法は現実離れした絵空事だ」「お花畑だ」と云われているが、はたしてそうでしょうか。

憲法前文には「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互に関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」と謳われています。このように憲法は現実的、リアリティあふれており、理想論でもなく絵空事、お花畑でもありません。

日本国憲法はカウンターカルチャー

なぜなら日本国憲法が生まれた最大の理由は、あの世界大戦において世界で八五〇〇万人が死に、当時の人口の二・五％が戦争で死に、アジアでは二〇〇〇万人、日本では三〇〇万～三五〇万人が死んだことです。このような悲惨な現実の中から日本国憲法はカウンターカルチャーとして生まれ、戦争放棄、戦力不保持、国の交戦権を認めないと宣言したのです。

最後に、哲学者の内田樹さんの「憲法は空語で何が悪い」（二〇二〇年五月、『週刊金曜日』）を紹介します。

憲法は「現実を創出するための空語」である。憲法と目の前の現実の間には必ず齟齬（そご）がある。憲法は「そこにかかれていることを実現するように現実を変成していく」手引きであって、目の前にあり現実をそのまま転写したものではないと。だから、「現実に合わせて憲法を変えるべきだ」というのは、そこから先は一ミリも向上しない、その社会の構成員たちは何一つ努力しなくなる、と。

（非核・いしかわ編集部）

◎九月一一日、日本バプテスト連盟・金沢キリスト教会で開かれた講演会要旨です。

上映会感想

劇映画「わが青春つきるとも―伊藤千代子の生涯」
～忘れてはならない戦前の不屈のたたかい～

◎編集部より…この映画の県内上映会に寄せられた感想の一部をご紹介します。

戦争は絶対してはならない

◇東京女子大の学長さんの言葉がとても心に残りました。今の大学は志の自由、国の将来、真実を考える「知」のよりどころになっているでしょうか。本当にたくさんの方々の熱い思いで今がある。再び戦争は絶対してはならない。

◇正しいと思うことを正しいということが許されないそんな国は絶対おかしいと思います。民主主義を守り戦争反対の声をあげ続けることの大切さを痛感しました。とても迫力のある映画でもっと各地で長く上映してほしいと思いました。

◇「天子様に反逆して」というおじいさんの声があったけど太平洋戦争の末期、日本がした玉砕とか特攻とか、今のウクライナもしない人命軽視の戦争。当時の官憲はアカ・非国民として国民を取り締まっていた。今は国葬に反対したら非国民？

千代子の思いを受け継ぎたい

◇女性に対しても拷問がこんなにすごかったのか驚いている。日本の戦争の悲惨さがここから始まっていると思います。なぜ日本があんなバカな戦争をしたか疑問であった。早く軍人などいない日本にすべきだと思った。千代子さんの思いを受け継ぎたいものです。

◇先人の命を懸けた闘いがあって今があると改めて感じ、いま私たちがで

きることを進めることが次代につながると信じたい。

◇この映画を観て「歴史はくりかえさないが、韻をふむ」という言葉を思い出しました。獄中の様子は外国人と入管問題、天皇制に順応した共産主義やプーチン・ロシアの体制内野党となりはてたロシア共産党など、私たちが直面している問題について歴史から学ぶことは多いし、そうすべきだと改めて思いました。

戦時中の反戦運動に勇気が出た

◇小中学校で習った範囲では戦時中、天皇制や侵略戦争に反対するひとはいないイメージだったので、その時代に戦っていた人がいるということを知って勇気が出ました。本から学んだことを行動に結びつけているのが印象的で自分自身も行わないといけないなと思いました。

◇最後の最後まで自分の意志でやりたいことを貫き通した強さに心打たれた。思想信条の自由が当たり前のような時代に生まれた私のような世代の人こそ千代子の時代のことや運動についてもっと知るべきだと思う。私も自分の考えに自信がなくなることがあるが、同じ志を持つ人と手をとりあってみんなで社会を変えることを続けたいと考える。

不屈の闘いが今の日本国憲法に

◇こうした名もない方々の不屈の闘いをつないで戦後の憲法につながったのですね。最後の場面を観ながら平和憲法下、千代子にのびのびとした生を味あわせてあげたかったとしみじみ思いました。

◇嵐の吹き荒れる時代に不屈の精神を貫いた女性たちの伝えたいことがあったからこそ今の私たちがあり、民主主義が守られているのではないかと考える。女性の強さは本当に男性を超えるものがありますね！！

◇まずこの映画製作に心血を注いで下さった各位に心より御礼申し上げます。私たちの主権在民と平和が暴力による思想弾圧を潜り抜けた上に成り立っているということを一女性の生き方を通じて赤裸々に体験することができ大切なことを導く力をここでもらいました。伊藤さん安らかに眠ってください。

◆県内上映会は残り二会場

・一〇月二九日（土）
　一〇時、一四時
　輪島市・輪島診療所

・一一月二三日（水・休日）
　一〇時、一四時
　石川県立美術館ホール

◆訂正

本紙前号五頁のワタナベ・コウさんの講演要旨「伊藤千代子が問いかけるもの」の中で、二段目一三行目「新婦人等」を「新婦人協会」に、三段目八行目「to meet 運動」を「# me too 運動」に訂正します。

非核石川の会リレーエッセー

不惑たりえない一市民の想い

池田治夫

先日、新型コロナのワクチン接種を地元自治体の接種会場で受けた。一夜経って接種部位の腫脹と痛みがとれず、今日は自宅待機の一日となりそうである。流行が始まってから三年半で四回のワクチン接種を受けたことになる。これが、以前であれば当たり前の人間関係が遠慮がちになるｗｉｔｈコロナの「日常」なのだろうかと憂鬱になってしまう。

テレビをつければ北朝鮮の中距離弾道ミサイルが列島を越えて太平洋上の海域に墜落したとの報道が喧しい。よりによって岸田政権を追い詰めつつあるこんな時にと思ってしまう。更にロシアのウクライナ東部四州の併合強行、台湾を巡っての米中の対抗など各国で安全保障上の火種がくすぶり続けている。これらも新たな不安情勢の「日常」で憂鬱な現実の一コマだ。

医療技術の進歩によってガンとの闘いが長期の穏やかなたたかいへ、そして人工臓器による移植医療へと発展して希望が見えたかと思えば、新たな感染症の蔓延で世界中がパニックになっている。前世紀末に冷戦構造が終結して国家間の軍事的衝突はないのではとホッとしたかと思えば、新たな軍事ブロックによる対抗構造が作られ実際に戦火を交えてもいる。いずれにしても社会は明暗両様で進歩していくものだろうが、その時代や地域に住む市民にとっては生命と生活に関わる重大問題である。

本会の非核の政府を求める主旨から考えれば、「戦争の回避、せめて核兵器の廃絶を。そして戦争の準備に使う莫大な予算を疫病克服や格差是正に使え」との願いを実現する政府を作ることに尽きる・・・。しかし、これは一国だけで出来ることだろうか。どこかに成熟した市民と政府との関係を築いているモデルとなる国がある

のだろうか。世界のなかでは軍事ブロックではない平和をめざす国家間条約があるとのことだが、それはどうすれば実現に向かうのだろうか。それとも、他にモデルを探すのではなく、自らが取り組んでいる運動の有り方を再考しないといけないのだろうか。選挙で多数を占めて政権を変えるという運動の方向性だけで良いのだろうかなどと、腕の痛みに耐えながら考える今日である。

詩人会議かなざわ「独標」より

今起きている事

高久晴美

北の彼方の大きな国が
隣の小さな国を侵略し続ける
それは紛れもなく戦争

それを遠巻きに
小さな国から大きな国まで
頑張れ頑張れと
武器を援助する
これは正しいのか、正しくないのか
その北の国を応援する国もいる

どちらにしても
自分の手を汚さぬだけではないかと
疑問を持つ事は罪なのか

この先、同じテーブルに着き終束を
向える事は
不可能なのだろうか

常に苦しむのは
その地に生きる普通の人達
くわを銃に持ち変える

何を信じる、国か神か
繰り返される言い訳と共に
どれほど血を涙を流せばいいのだろうか

ならば
銃を手離せ
手離せないのならば、せめて、
自分の言葉を持ち続けろ

編集室より

◎プーチン露大統領は、クリミア大橋爆発事件をウクライナ情報機関のテロと断定し、一〇月一〇日以降、ウクライナ全土を攻撃するという報復に出た。これに対し国連のグテレス事務総長は「戦争の拡大で受け入れられない」、EUのボレル外交安全保障上級代表は「戦争犯罪」、国連総会緊急特別会合のコロシ議長は「共通ルールのない未来なき世界になる」、北欧・バルト諸国を代表してラトビアの代表は「武力行使による他国領土の併合などありえない」、オーストリア代表は「ロシアの不法行為の終結を求めることは国連加盟国の義務」、スイス代表は「最強国の力が最弱国の権利に勝利することを許さない」、オランダは「安保理常任理事国による国際的ルールの蹂躙」、メキシコは「他国が侵略の犠牲になることは許さない」等、ロシアへの非難が相次いだ。

そして一二日の緊急特別会合で、ロシアがウクライナ東南部四州で実施した「住民投票」と併合は違法であり無効だとする非難決議を一四三か国の圧倒的な賛成多数で採択した（反対はロシア、ベラルーシ、北朝鮮、ニカラグア、シリアの五か国、棄権は中国、インド、など三五か国）。これはこの問題での過去最高の賛同数。これは真っ当な反応であろう。

何よりも気がかりなのは、戦況の悪化に逆上したプーチン大統領が核兵器の使用に踏み切ることだ。もとよりそれは、ロシアのラブロフ外相が「国家存亡の危機のみに核使用を想定する」と発言しているように、杞憂でなければならない。

ホワイトハウスのジャンピエール報道官は「ロシアが核兵器の使用を準備しているという兆候はない」、アメリカ国防総省のクーパー次官補代理は「現時点でまだそれはレトリックに過ぎない」と述べている。

しかし、イギリスの新聞「タイムズ」が未確認情報ながら「プーチン大統領がウクライナとの国境付近で核実験を計画し、NATOが加盟国に警告した可能性がある」「核兵器を管理するロシアの秘密部隊の列車がウクライナに向かった」と伝え、イタリアの新聞「レプブリカ」は「核弾頭搭載可能な魚雷ポセイドンを積んだロシアの原子力潜水艦が北極海に展開し、発射実験を行う可能性」と報じました。

こうした核兵器をめぐる心理戦・情報戦は当面、続きそうだ。

過去と異なり、現在ではネット画面上で戦況をつぶさに見ることが出来るし、まるでウォーゲームでもしている感になる。この感覚麻痺の怖さに身震いするし、画面の向こう側の信じがたい現実を想像すると、居ても立っても居られない。日本国内の軍備増強賛成の空気が何よりも怖い。（中）

◆訂正

本紙前号二頁四段最終行の「NPT＝核兵器禁止条約」を「核兵器不拡散条約」に訂正します。

石川の山めぐり 22

蟹ノ目山（689m）加賀市

吉沢 京子

蟹ノ目山（がんのめやま）の由来は、日本百名山の著者深田久弥さんが山頂に大木が二本あって、蟹の目に見えたということから命名したそうです。

加賀市荒谷からの大平（おおだいら）尾根コースから小谷（こたに）尾根コースと周回できる道がありますが、最近は地元の山岳会が市の谷からの周回コースを整備されています。

市の谷の八幡神社参道から急坂を登り出し、ツバキ、ナツツバキ、ブナの林の中を進みます。六三一mでは白山展望ができ、杉水峠への道を見送り荒谷越（かつては荒谷町と市の谷町をつなぐ旧道が通っていた）に着きます。ここから大きく下り、又登り返すと蟹ノ目山頂に着きます。三等三角点（点名　大溝の上）があり、山頂からは白山、大日山、小大日、加賀甲、西には鞍掛山、小松方面、木場潟、日本海と眺望は素晴らしいです。

下りはブナ林を歩いて、急な斜面を市の谷へと戻ります。休憩を含まないで五時間はみておきたい山です。又熊が多い山だそうです。

お花はイカリソウ、スミレ、トクワカソウ、ユキグニミツバツツジ、チゴユリ、ツクバネウツギ、ナルコユリ、ギンリョウソウ、ササユリ、シャガ、白糸草、シャクナゲ、ナツエビネなどまだまだ沢山あります。紅葉のころも美しく、楽しい山歩きが出来ます。

蟹ノ目山頂より大日山方面を望む

8月に咲くナツエビネ

登山道沿いに咲く白糸草

絵手紙コーナー

金沢医療生活協同組合
絵手紙班　坂本 朋子

非核・平和の掲示板

月	日	曜日	時間	行事予定	会場
10	23	日	14:00	金沢紫金草合唱団22周年コンサート	金沢市俵町・俵芸術交流スタジオ 体育館
	29	土	10:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会（2回目　14:00～）	輪島市堀町1丁目・輪島診療所
11	3	木・休	13:30	平和憲法公布76年記念石川県民集会 記念講演・岩淵正明さん	金沢市三社町・石川県女性センター ホール
	5	土	14:00	講演会「ウクライナ問題―消えないもやもや感」 神戸大学名誉教授 ロニー・アレキサンダーさん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階集会室
	23	水・休	10:00	映画「伊藤千代子の生涯」上映会（2回目　14:00～）	金沢市出羽町・石川県立美術館 ホール
	23(水)～24(木)			22年日本高齢者大会in京都	京都市内各会場　オンライン併用
	26(土)～27(日)			22年日本平和大会in東京	東京都内各地　オンライン併用
12	8	木	18:00	12・8 平和を守るつどい／講師 須藤春夫さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階集会室

＊会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中　年会費 2,000円